

評価結果

- ・必要性： 本地域は、大半が水源かん養保安林に指定されており、地域の水源地としての役割や、地域の基幹産業である農業等に資する観点から、水源涵養の役割を果たすことが期待されている。また、急峻な地形であることから、山地保全の役割が求められている地域であり、地球温暖化防止対策や広葉樹を含む木材の安定供給と有効活用のほか、保健文化機能の維持等に寄与する観点からも事業の必要性が認められる。
- ・効率性： 路網整備においては、本地域特有の急傾斜地形及び脆弱な地質に留意した工種及び作業仕様による開設・改良によって森林整備実施箇所へのアクセスを向上させ、森林整備においても現地の状況に応じた更新・保育作業を効率的に行うことによりコストの増加を抑えていくこととしており、費用便益分析の結果からも、事業の効率性が認められる。
- ・有効性： 本事業により、森林が健全な状態に維持され、水源涵養、山地保全、二酸化炭素の固定等の公益的機能の発揮が期待される。また、効率的な森林整備により、地域の基幹産業である農業の振興にも資することや、これまでの評価結果を踏まえた事業内容となっており、事業の有効性が認められる。

新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用便益分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に評価したところ、森林の重視すべき機能（特に水源涵養）に応じた適切な森林整備及び路網整備が効率的に計画されていると認められる。

事前評価個表

事業名	森林環境保全整備事業（国有林）	事業計画期間	令和2年度～令和6年度（5年間）																
事業実施地区名 （都道府県名）	（おしまひやま） 渡島檜山森林計画区 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 ひやま 檜山森林管理署 おしま 渡島森林管理署																
事業の概要・目的	<p>本事業は、北海道の南西部に位置し、渡島総合振興局・檜山振興局管内の2市15町に所在する国有林野約258千haを対象としている。</p> <p>人工林面積は約26%にあたる約66千haで、そのうち間伐の対象となる林分が約76%となっている。今後は主伐対象となる林分も増え、更新面積の増加が見込まれることから、森林整備の重要性が高くなっている。</p> <p>本地域の国有林野には、自然公園、史跡名勝天然記念物、植物群落保護林等の優れた自然や貴重な自然が多く存在している。水源かん養や土砂流出防備等を目的とした保安林は244千haにも達しており、本地域の国有林野の95%を占めている。</p> <p>本地域の森林は、地域の水源地としての役割のほか、噴火湾沿岸のホタテやコンブ等の養殖をはじめとする水産業等の基幹産業に資する点でも重要な役割を担っており、河川の水質への影響を踏まえ、土砂の流出等に配慮した森林施策が求められている。</p> <p>また、急峻な地勢や狭隘な半島を要因として、海岸部の森林や生活域に隣接した森林を多く抱えており、さらに、火山放出物が広く分布していることから、土砂の流出・崩壊等による山地災害の防止の観点からも重要な役割を担っている。</p> <p>このほか、本地域の国有林野は、南北海道有数の観光地となっている自然公園の核心部を形成するなど、その美しい風景を見せており、大千軒岳、乙部岳、遊楽部岳、長万部岳、メップ岳、狩場山等の山岳は、夏冬をとおしてスポーツ・ハイキング・登山・自然探勝・自然観察等数多くの好ポイントを提供している。また、北海道最古の温泉「知内温泉」をはじめ、各市町ともに数多くの温泉源にも恵まれており、渡島半島の保養の場としても重要な役割を担っている。</p> <p>本事業は、これら地域の期待に応えるとともに、これまでの評価結果を踏まえ、伐採と造林の一貫作業や植付効率の向上等の効果が期待されるコンテナ苗の導入等を図り、低コストで効率的な作業システムを確立しながら、水源涵養、山地保全、二酸化炭素の固定等森林の有する多面的機能の発揮に必要な植栽等の更新作業、間伐等の保育作業及び効率的な森林整備を推進するための路網整備を実施する。</p> <p>・主な事業内容：</p> <table border="0"> <tr> <td>森林整備</td> <td>更新</td> <td>面積</td> <td>1,158 ha</td> </tr> <tr> <td></td> <td>保育</td> <td>面積</td> <td>28,416 ha</td> </tr> <tr> <td>路網整備</td> <td>開設</td> <td>延長</td> <td>62.1 km</td> </tr> <tr> <td></td> <td>改良</td> <td>延長</td> <td>0.6 km</td> </tr> </table> <p>・総事業費 12,225,542 千円（税抜き 11,114,129 千円）</p>			森林整備	更新	面積	1,158 ha		保育	面積	28,416 ha	路網整備	開設	延長	62.1 km		改良	延長	0.6 km
森林整備	更新	面積	1,158 ha																
	保育	面積	28,416 ha																
路網整備	開設	延長	62.1 km																
	改良	延長	0.6 km																
費用便益分析	総便益（B）	62,856,404 千円																	
	総費用（C）	15,986,497 千円																	
	分析結果（B/C）	3.93																	
森林管理局事業評価 技術検討会の意見	事業の必要性、効率性、有効性が認められることから、本事業を実施することが妥当であると考えます。																		

<p>評価結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性： 本地区は、大半が水源かん養保安林に指定されており、地域住民の生活用水や、地域の基幹産業である農業用水に資する観点から、水源涵養の役割を果たすことが期待されている。また、急峻な地形もあることから、山地保全の役割が求められている地域であり、地球温暖化防止対策や広葉樹を含む木材の安定供給と有効活用のほか、観光に資する保健文化機能の維持等に寄与する観点からも事業の必要性が認められる。 ・効率性： 現地の地形・地質状況に適した工種及び作業仕様での路網の開設・改良によって森林整備実施箇所へのアクセスを向上させ、森林整備においても現地の状況に応じた更新・保育作業を効率的に行うことによりコストの増加を抑えていくこととしており、費用便益分析の結果からも、事業の効率性が認められる。 ・有効性： 本事業により、森林が健全な状態に維持され、水源涵養、山地保全、二酸化炭素の固定等の公益的機能の発揮が期待される。また、効率的な森林整備により、地域の基幹産業である農業の振興にも資することや、これまでの評価結果を踏まえた事業内容となっており、事業の有効性が認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用便益分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に評価したところ、森林の重視すべき機能（特に水源涵養）に応じた適切な森林整備及び路網整備が効率的に計画されていると認められる。</p>
-------------	---